

## 2040年代の社会経済状況について

平成30年10月30日

東京ベイエリアビジョン(仮称)ワーキンググループ(第2回)


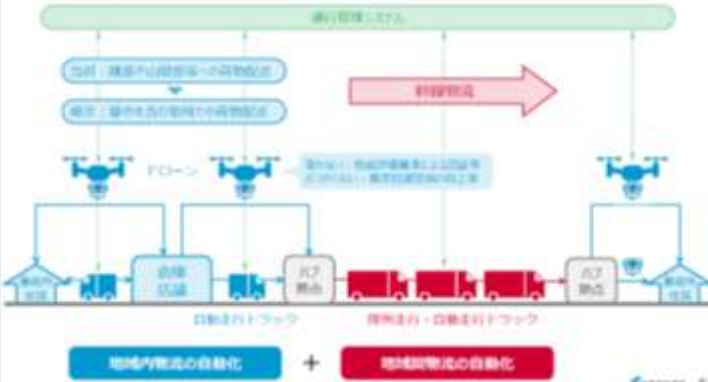

# 社会経済の未来年表

	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050
人口・世帯		●2025: 団塊の世代が75歳以上【国】		●2035: 区部人口978万人(ピーク)【国】 ●2035: 団塊ジュニア世代が65歳以上【国】	●2040: ペイエリア6区292万人(ピーク)【国】 ●2040: 平均寿命: 女性89.63歳、男性83.27歳【国】 (2015年: 女性86.98歳、男性80.75歳)	●2045: 区部人口: 970万人【国】	
技術革新	●2022: 高速道路での無人トラック隊列走行事業化【国】 ●2020代: 都市部でのドローン荷物配送本格化【国】	●2025: 自動車が完全自動走行【国】		●2027: 空飛ぶクルマの先進国で量産開始【他】 ●2025-30: 労働の約半分をAI・ロボットに代替可能【シ】		●2045: AIが人間を追い抜き、人間と人工知能が融合【他】	
産業・経済	●2020: 訪日外国人旅行者4000万人【国】 ●2020: 訪都外国人旅行者2500万人【都】	●2024: 訪都外国人旅行者3000万人【都】	●2030: 訪日外国人旅行者6000万人【国】	●2030: 定型的業務就業者: 386万人減少【国】 価値創造型就業者数190万人増加【国】			
	●2020: 羽田空港の容量拡大【国】	●2027: リニア中央新幹線(東京-名古屋)開業【他】	●2030: 京浜3港の総貨物量が2010年比で最大65%増加【他】	●2037~2045: リニア中央新幹線(名古屋-大阪)開業【他】			
		●2025: ヘルスケア産業の市場規模: 2016年の約1.3倍(83兆円)【国】					
		●2025: 世界のシェアリングエコノミー市場が、2013年の約22倍(約36兆円)の規模に拡大【シ】					
		●2025: コンテンツ産業を含む文化関連の国内総生産(GDP)を約18兆円に拡大(2015年: 約8.8兆円)【国】					
	●2020: MICEで来日する外国人の国内消費3000億円(2016: 1500億円)【国】		●2030: MICEで来日する外国人の国内消費8000億円(2020: 3000億円)【国】				
	●2020: 全銀行の約6割以上がフィンテック企業に対応したオープンAPIを導入【国】	●2027: キャッシュレス決済比率が2割(2017)から4割に拡大【国】					
環境・エネルギー	●2020: スマートメーター全戸設置(東京電力管内)【他】		●2030: CO2: 2013年度比26.0%減【国】		●2040頃: CO2フリー水素の製造、輸送・貯蔵の本格化【国】		●2050: CO2: 2013年度比80%減【国】
			●2030: 都内温室効果ガス排出量: 2000年比30%減【都】				
			●2030: 再生可能エネルギー比率22-24%【国】				
			●2030: 太陽光発電コストが従来火力発電並【国】				
			●2030まで: 次世代自動車が新車販売の70%【国】				
			●2030: 新築建築物の平均でZEB、ZEH実現				
暮らし方・働き方	●2020: テレワーク導入企業3倍(2012比)【国】 ●2020: 雇用型の在宅テレワーカーの割合が10%以上【国】			●2035: IT等の技術革新により、働く場所に関する制約がなくなる【国】			
		●2025: 高齢者、身障者を介助者なしで支援するロボットや住宅が実現【国】		●2035: 企業が人を抱え込む雇用形態がマイナーになる【国】			
				●2035: AI等による介護や子育て、家事などの負担からの解放【国】			

凡例:  
 【国】国や審議会の目標値等  
 【都】都の計画の目標値等  
 【シ】シンクタンク等の研究機関の予測値  
 【他】民間企業等の展望・戦略

※将来の社会経済状況をイメージするために国等の機関で作成されたものをまとめたものであり、各々の前提条件・予測値が異なる場合や実現年次等には様々な説がある。

# 2040年代の社会経済の姿

分野	2040年代のイメージ	参考
技術革新	<p><b>【ヒトの移動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自動走行技術の普及により、安全で多様な移動サービスが提供されている。</li> <li>空飛ぶクルマ、自動走行技術などにより、渋滞や交通事故、移動制約が解消されている。</li> <li>通勤・通学時間が短縮化し、その時間が自由になり、スポーツ・レクリエーションなど余暇を楽しむ人が増えている。</li> </ul> <p><b>【モノの移動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>トラックの無人・隊列走行やドローン宅配が実現し、物流業の労働力不足は解消されている。</li> <li>新興国の経済発展とともに世界的に貨物流動が高まるなか、陸～空にわたる多様な輸送手段がシームレスにつながり、高度な物流サービスが実現している。</li> </ul> <p><b>【人工知能技術】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人間しかできなかったことが機械に代替可能となり、働き方など、生活が大きく変化する</li> </ul>	<p><b>■空飛ぶクルマ</b>            (CARTIVATOR「日本発 空飛ぶクルマ‘Sky Drive’の開発について」            経済産業省空の移動革命に向けた官民協議会「第1回資料」(H30.8)より)</p>  <p><b>■モノの移動の方向性</b>            (経済産業省産業構造審議会新産業構造部会「新産業構造ビジョン」H29.5)</p> 
産業・経済	<p><b>【就業構造】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>単純化・定型化された業務はAIが担い、技術が必要な職種、人間的な付加価値が必要な職種は人間が担っている。</li> <li>自動化などによりAIの利用が進む製造業と比較して、AIの利用だけでは対応できないサービス業を中心に就業者が増加している。</li> </ul> <p><b>【コミュニケーション】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自動翻訳で言葉の障壁は低減し、優秀な人材は国を問わず移動するとともに、インバウンドの受入環境も充実している。</li> <li>第4次産業革命に伴い、高度人材の獲得競争は世界規模で激化しており、選ばれる地域については、働く人にとって、どれだけ魅力的な環境(制度を含む)であるかが重要になっている。</li> <li>訪日外国人旅行者の拡大等を通じて、外国人材が各所で活躍している。</li> </ul>	<p><b>■あらゆる翻訳の実現</b>            (総務省 IoT新時代の未来づくり検討委員会「未来をつかむTECH戦略」H30.8)</p>  <p>目や耳が不自由でも、外国語が苦手でも、自分の選んだメニューで会議の内容を翻訳して自在に伝えるシステム。</p>

※将来の社会経済状況をイメージするために国等の機関で作成されたものをまとめたものであり、各々の前提条件・予測値が異なる場合や実現年次等には様々な説がある。

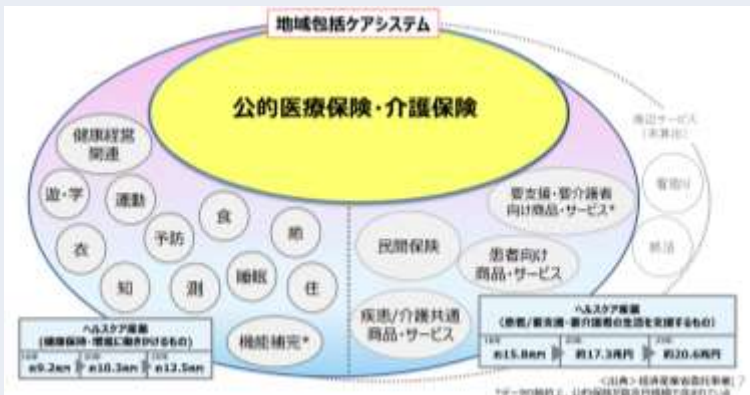
# 2040年代の社会経済の姿

## 分野 2040年代のイメージ

- 産業・経済**
- 【成長ビジネス～ヘルスケア】
    - 高齢化や健康・医療ニーズの多様化を背景に、公的保険を支える公的保険外サービスの産業群が成長している。
  - 【成長ビジネス～シェアリングエコノミー】
    - 消費ではなく、共有するという新たな形の経済により、新たなコミュニティが生まれている。
  - 【成長ビジネス～芸術・文化】
    - インバウンドやITCと文化の融合などにより、文化芸術・観光・産業が一体となった新たな価値が創出され、「稼ぐ文化」が展開されている。
  - 【フィンテック】
    - 個人のあらゆる決済がキャッシュレスとなり、個人消費が活性化している。
    - 会計・経理業務等のバックオフィス効率化や資金繰りの改善、成長投資へのリソースシフトにより、中小企業の収益力が劇的に向上している。
    - 多様な資金調達手段を活用したベンチャー企業が勃興・成長している。

## 参考

■ヘルスケア産業の市場規模  
 (経済産業省経済産業省次世代ヘルスケア産業協議会(第7回)  
 「資料2:次世代ヘルスケア産業協議会の今後の方向性について」H30.4)



■世界のシェアリングエコノミー市場の予測  
 (PwC「The sharing economy — sizing the revenue opportunity」)



※将来の社会経済状況をイメージするために国等の機関で作成されたものをまとめたものであり、各々の前提条件・予測値が異なる場合や実現年次等には様々な説がある。

# 2040年代の社会経済の姿

分野

2040年代のイメージ

参考

環境・エネルギー

【脱炭素の暮らし】

- 住宅やビルなどの建物は、徹底した省エネ、使用する電力の低炭素化（水素、再エネ等）、電化・低炭素燃料への利用転換が一般化し、ICTも有効に活用して暮らしの脱炭素が実現している。
- 我が国全体の建物ストック平均でもゼロエミッションに近づいている。
- ネットワークの高度化、ビッグデータ解析技術、人工知能（AI）等の発展により、「超スマート社会」が実現している。

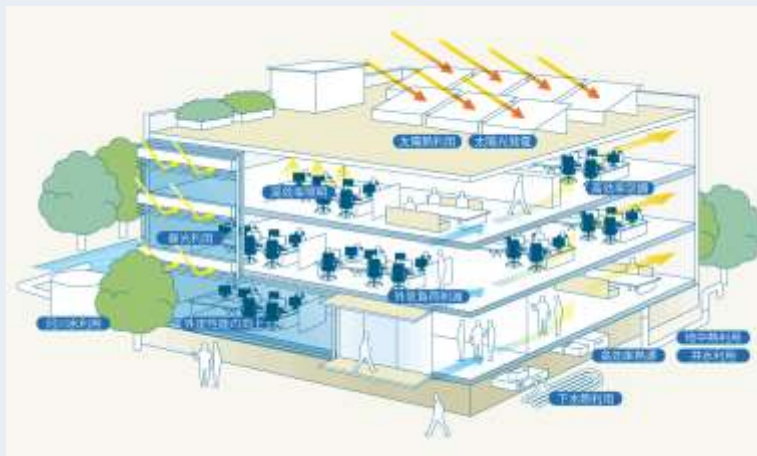
■水素社会のイメージ

(環境省中央環境審議会地球環境部会「長期低炭素ビジョン」H29.3)



■ZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)のイメージ

(経済産業省 資源エネルギー庁HP)



# 2040年代の社会経済の姿

分野	2040年代のイメージ	参考
働き方・暮らし方	<p>【働き方・イノベーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>あらゆる分野のリアルタイムデータの活用が進展するなか、産学官・国内外の組織の壁も低くなっている。</li> <li>新たなイノベーションが、組織等を超えて、多様な主体が集い、つながりが形成される中で生まれている。</li> <li>組織の壁を超えた人材交流や、スーパーコンピュータなどの高額設備のシェアリングが進展している。</li> <li>従来型の企業単位のオフィスではなく、シェアオフィスのような形態が一般化している。</li> <li>ITC技術の進展より、ありとあらゆる場所(自宅やカフェ等)が職場になっている。</li> </ul>	<p>■職場スイッチ (総務省 IoT新時代の未来づくり検討委員会「未来をつかむTECH戦略」H30.8)</p>  <p>複数の仕事に就き、時間の切り売りで個人の能力を最大限発揮。家でもカフェでも、スイッチ1つで切り替わるバーチャル個室で効率サポート。</p>
	<p>【介護や子育てが制約にならない社会】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>AIなどによる自動化・ロボット化により、介護や子育て、家事などの負担から、働く人が解放されている。</li> <li>介護についても、健康管理システムにより要介護状態になる前に十分な予防的措置がなされ、また、介護ロボットの導入によって介護の負担が大きく改善している。</li> <li>移動ツールによって要介護者の外出も容易になっている。</li> </ul>	<p>■お節介ロボット (総務省 IoT新時代の未来づくり検討委員会「未来をつかむTECH戦略」H30.8)</p>  <p>目覚め・歯磨き・着替え・朝食などの忙しい朝支度をスムーズに準備させてくれるお節介な手伝いロボット。</p>

## (参考)未来年表出典

### ■人口・世帯

2025: 団塊の世代が75歳以上	内閣府「平成28年版高齢社会白書」
2035: 団塊ジュニア世代が65歳以上	厚生労働省「働き方の未来2035:一人ひとりが輝くために」懇談会「働き方の未来2035」(H28.8)
2040: 平均寿命: 女性89.63歳、男性83.27歳	社人研「日本の将来推計人口(平成29(2017)年推計)」
2035: 区部人口978万人(ピーク) 2045: 区部人口: 970万人	社人研「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」
2040: バイエリア6区人口292万人(ピーク)	

### ■技術革新

2020代: 都市部でのドローン荷物配送本格化	経済産業省産業構造審議会新産業構造部会 事務局「新産業構造ビジョン」(H29.5)
2020: 空飛ぶクルマデモフライト	CARTIVATOR「日本発 空飛ぶクルマ‘Sky Drive’の開発について」 空の移動革命に向けた官民協議会「第1回資料」(H30.8)より
2027: 空飛ぶクルマの先進国で量産開始	
2022: 高速道路での無人トラック隊列走行事業化	経済産業省産業構造審議会新産業構造部会 「新産業構造ビジョン」(H29.5)
2025: 自動車完全自動走行	
2025-30: 労働の約半分をAI・ロボットに代替可能	野村総合研究所、英国オックスフォード大学マイケル・オズボーン准教授らの共同研究(H27.12)
2045: AIが人間を追い抜く	未来学者レイ・カーツワイル氏の予測 『The Singularity is Near(邦題『ポスト・ヒューマン誕生』)』(2005発刊)より
2020: 多言語自動翻訳の実用化	総務省「グローバルコミュニケーション計画」(H26.4)
2030: 国際商取引の同時通訳が可能な翻訳装置の実用化	文部科学省 科学技術・学術政策研究所 「第10回科学技術予測調査分野別科学技術予測」(H27.9)
2030: 生活支援ロボットが実用化	
2040: 人型ロボットが一般化	総務省 IoT新時代の未来づくり検討委員会「未来をつかむTECH戦略」(H30.8)

### ■産業経済

2020: 訪日外国人旅行者4000万人 2030: 訪日外国人旅行者6000万人	内閣府日本経済再生本部未来投資会議「日本再興戦略2016」
2020: 訪都外国人旅行者2500万人 2024: 訪都外国人旅行者3000万人	東京都「2020年に向けた実行プラン」(H28.12)
2030: 定型的業務就業者386万人減少 価値創造型業務就業者190万人増加	厚生労働省「平成29年度版労働経済白書」
2020: 羽田空港の容量拡大	国土交通省航空局「2020年までの羽田空港の国際線増便に向けて」
2030: 京浜3港の総貨物量が2010年比で最大65%増増加	京浜港連携協議会「京浜港の総合的な計画」(H23.9)
2027: リニア中央新幹線(東京-名古屋)開業 2037~2045: リニア中央新幹線(名古屋-大阪)開業	国土交通省国土政策局「スーパー・メガリージョン構想検討会設置の趣旨について」(H29.9)

## (参考) 未来年表出典

### ■ 産業経済

2020・2030: MICEで来日する外国人の国内消費	国土交通省MICE国際競争力強化委員会「我が国の MICE 国際競争力の強化に向けて(提言)」(H30.7)
2025: ヘルスケア産業の市場規模: 2013年の約1.3倍(33兆円)	経済産業省経済産業省次世代ヘルスケア産業協議会「次世代ヘルスケア産業協議会の今後の方向性について」H30.4
2025: 世界のシェアリングエコノミー市場が、2013年の約22倍(約36兆円)の規模に拡大	PwC「The sharing economy — sizing the revenue opportunity」
2025: コンテンツ産業を含む文化関連の国内総生産(GDP)を約18兆円に拡大	経済財政運営と改革の基本方針 2017(平成 29 年6月9日閣議決定)
2020: 全銀行の約6割以上がフィンテック企業に対応したオープンAPIを導入 2027: キャッシュレス決済比率が2割(2017)から4割に拡大	内閣府日本経済再生本部未来投資会議「未来投資戦略」(H30.6)

### ■ 環境・エネルギー

2020: スマートメーター全戸設置(東京電力管内)	東京電力「スマートメーター設置計画の見直しについて」(H25.10.28)
2030: CO2 : 2013年度比26.0%減 2050: CO2 : 2013年度比80%減	環境省「地球温暖化対策計画」(H28.5)
都内温室効果ガス排出量: 2000年比30%	東京都「2020年に向けた実行プラン」(H28.12)
2030: 再エネ比率22-24%	経済産業省「長期エネルギー需給見通し」(H27.7)
2030: 太陽光発電コストが火力発電並みになる	(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO) 新エネルギー部 主任研究員 山田 宏之「NEDOのPV発電コスト削減シナリオ」
2030まで: 次世代自動車が新車販売の70%	環境省「地球温暖化対策計画」(H28.5)
2040頃: CO2フリー水素の製造・輸送・貯蔵の本格化	経済産業省水素・燃料電池戦略協議会「水素・燃料電池戦略ロードマップ改訂版」(H28.3)
2020: 新築公共建築物等でZEB実現 注文戸建住宅の半数以上でZEH実現 2030: 新築建築物の平均でZEB、ZEH実現	経済産業省「エネルギー基本計画」(H30.7)

### ■ 暮らし方・働き方

2020: テレワーク導入企業3倍(2012比) 雇用型在宅テレワーカーの割合が10%以上	内閣府高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部 「世界最先端IT 国家創造宣言工程表」(H28.5)
2035: IT等の技術革新により、働く場所に関する制約がなくなる	厚生労働省 「働き方の未来2035: 一人ひとりが輝くために」懇談会 「働き方の未来2035」(H28.8)
2035: 企業が人を抱え込む雇用形態がマイナーになる	厚生労働省 「働き方の未来2035: 一人ひとりが輝くために」懇談会 「働き方の未来2035」(H28.8)
2035: AI等による介護や子育て、家事などの負担からの解放	厚生労働省 「働き方の未来2035: 一人ひとりが輝くために」懇談会 「働き方の未来2035」(H28.8)
2025: 高齢者、身障者を介助者なしで支援するロボットや住宅が実現	文部科学省 科学技術・学術政策研究所 「第10回科学技術予測調査分野別科学技術予測」(H27.9)



## 東京ベイエリアの特徴について

- ・東京ベイエリアと拠点ネットワーク
- ・特徴1:産業・都市活動を支える機能
- ・特徴2:都市的利用の進展
- ・特徴3:水と緑のネットワーク
- ・各地域の現況

平成30年10月30日

東京ベイエリアビジョン(仮称)ワーキンググループ(第2回)

# 東京ベイエリアと拠点ネットワーク

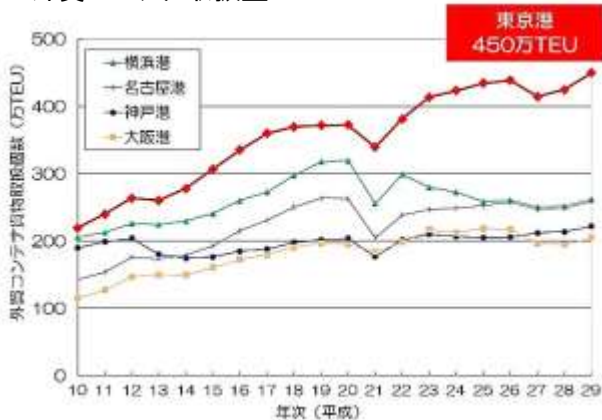


- 凡例**
- 鉄軌道
  - // (事業中)
  - // (交政審答申で事業化に向けて検討などを進めるべきとされた路線)
  - // (交政審答申に位置付けられた路線)
  - 高速道路
  - // (事業中)
  - // (検討路線)

# 特徴1: 産業・都市活動を支える機能

東京ベイエリアは、東京港や羽田空港を擁し、首都圏の産業発展に不可欠な国際貿易のメインゲートであるとともに、都市活動を支える物資、資源、エネルギーの供給口であり、都市で消費された資源の再生・処分の場所でもある。

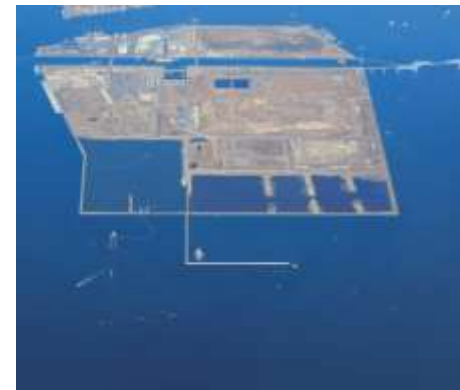
## ■ 外貿コンテナ取扱量



## ■ 豊洲スマートエネルギーセンター ■ 新海面処分場



(出典：東京ガス株式会社ホームページ)



(出典：港湾局「新海面埋立処分場」パンフレット)

## ■ 外内貿コンテナ取扱個数実績と将来予測



(出典：東京都「東京港第8次改訂港湾計画」(概要))

## ■ 砂町水再生センター

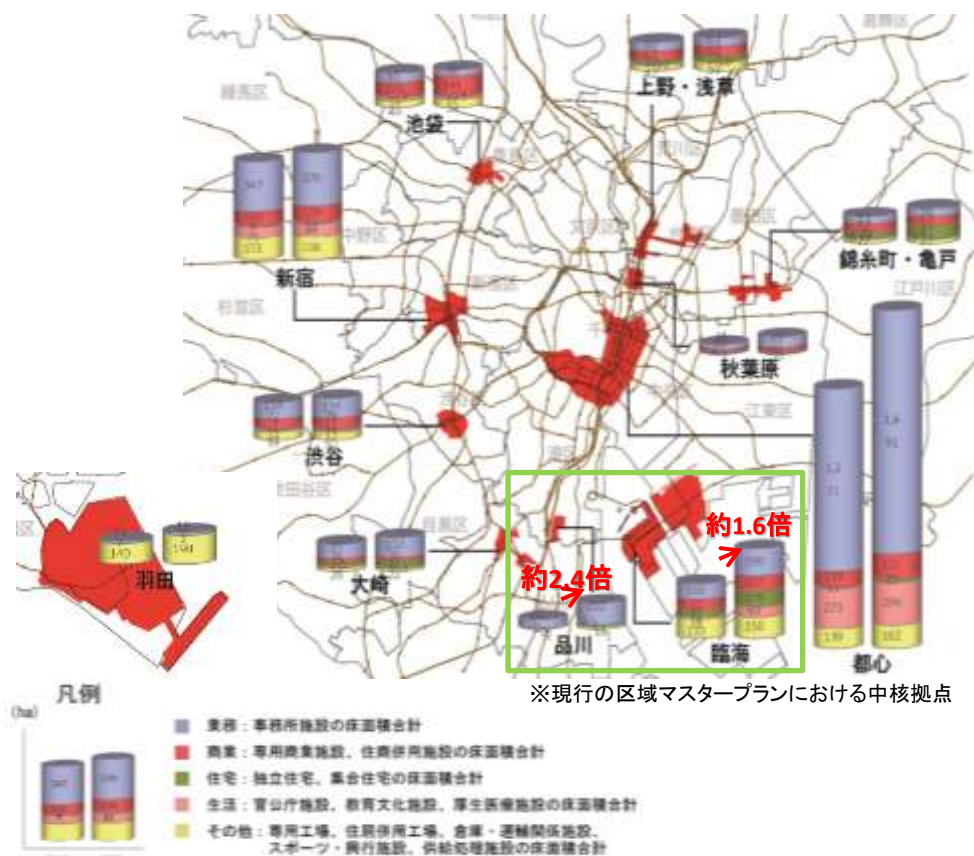


(出典：下水道局ホームページ)

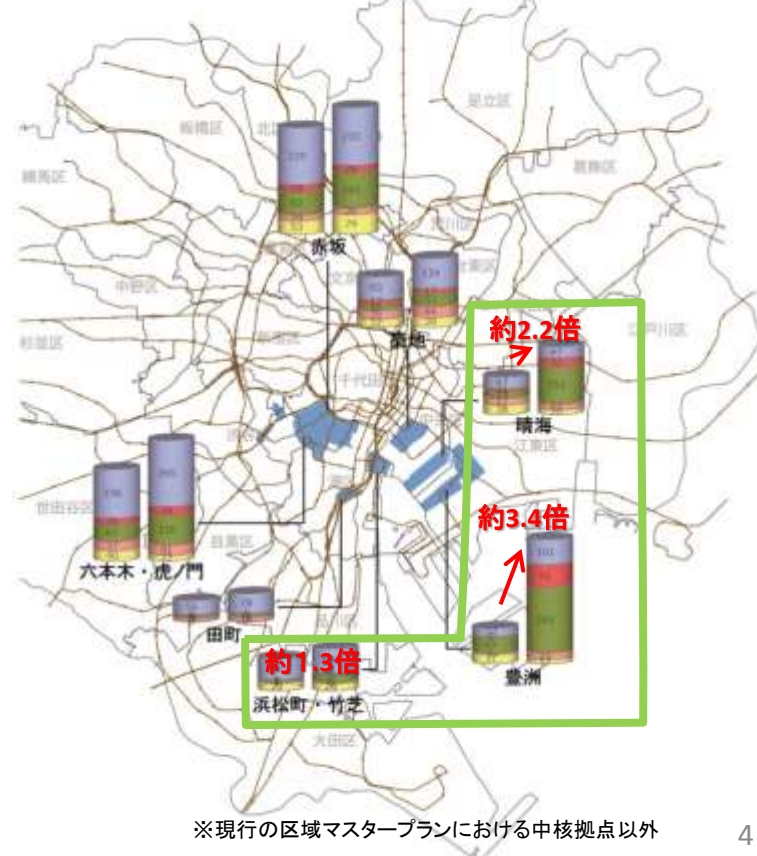
## 特徴2: 都市的利用の進展

区部中心部の既成市街地と接する一部の地域においては、港湾機能の沖合展開などによる物流施設・倉庫などの移転が進むとともに、公共交通機関の整備により都市的利用が可能となり、浜松町・竹芝や臨海副都心、環状2号線沿道の地域において開発が進み、都心部とのつながりが強化されてきた。

■都市機能の集積状況（中核拠点）※



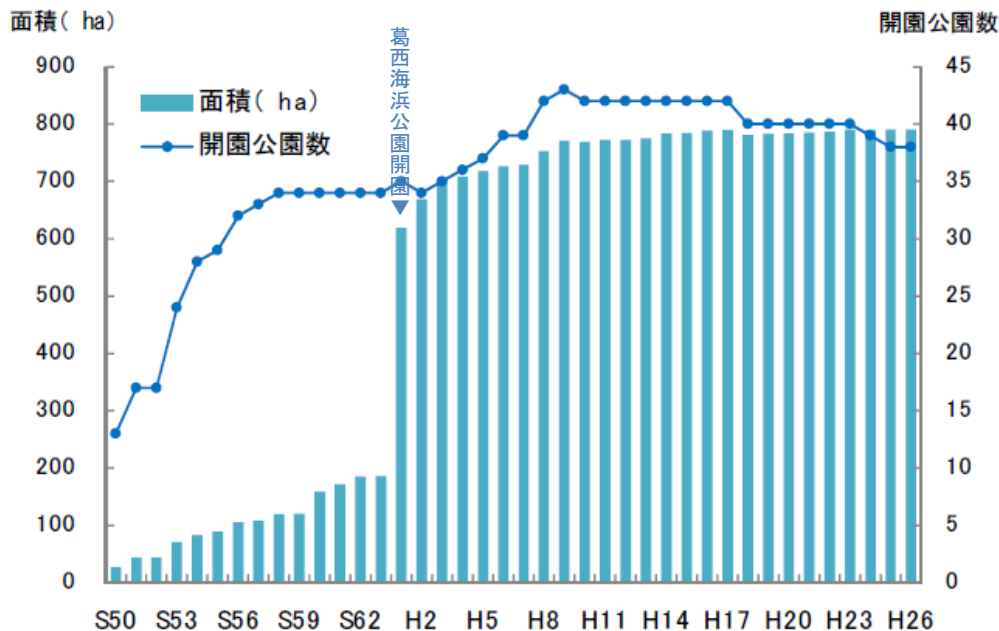
■都市機能の集積状況（中核拠点以外）※



# 特徴3: 水と緑のネットワーク

埋め立て地に海上公園などを整備することで、  
 ベイエリアに緑地が創出され、大規模な水と緑のネットワークが形成されている。

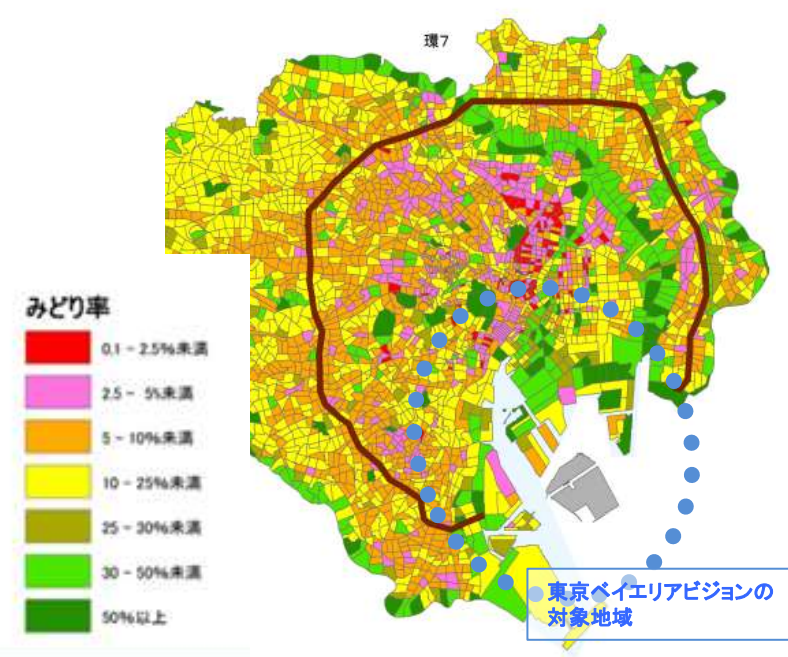
■海上公園の開園公園数、開園面積の推移



※公園数減は、区移管に伴うもの

(出典：東京都「海上公園ビジョン」平成29年5月)

■町丁目別のみどり率



※みどり率：緑が地表を覆う部分に公園区域・水面を加えた面積が、地域全体に占める割合  
 (出典：東京都都市計画審議会「第2回土地利用調査特別委員会」資料より抜粋)

# 検討対象エリア

【参考】

平成30年8月29日



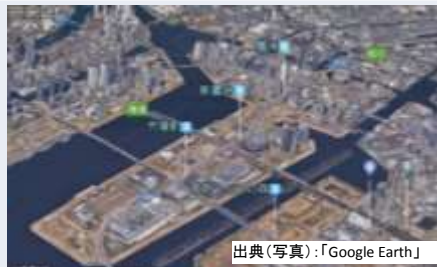
東京ベイエリアビジョン(仮称)

ワーキンググループ①資料3より抜粋

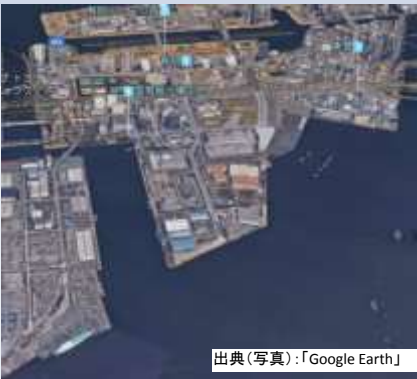
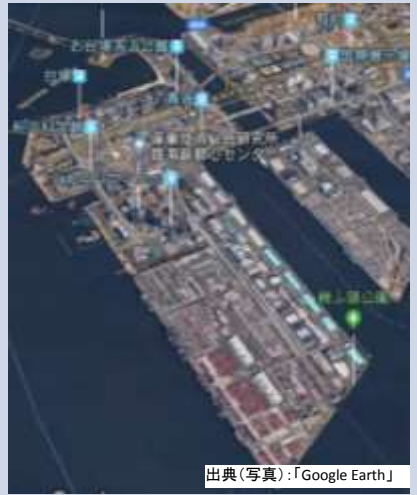


※都市づくりのランドデザイン第6章(一部加工)

## 各地域の現況①(3つの特徴別)

	産業・都市活動を支える機能	都市的利用 (住宅・商業・業務など)	水と緑のネットワーク	
勝どき	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊海地区には、水産冷蔵倉庫等が立地</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>銀座から2kmの立地で、幹線道路沿いや駅周辺に集合住宅が多く立地</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>隅田川や朝潮運河に囲まれている</li> <li>運河ルネサンスの取組(朝潮地区)</li> </ul>	 <p>出典(写真):「Google Earth」</p>
月島	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>大川端リバーシティなどの集合住宅が立地する一方、下町情緒あふれるまちなみが一部残る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>隅田川や朝潮運河に囲まれている</li> <li>運河ルネサンスの取組(朝潮地区)</li> </ul>	 <p>出典(写真):「Google Earth」</p>
晴海	<ul style="list-style-type: none"> <li>中央清掃工場が立地</li> <li>晴海客船ターミナルが立地</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東側では、業務、商業などのトリスクエアが立地</li> <li>水辺には、多くの集合住宅が立地</li> <li>西側は、大規模な集合住宅(選手村)が整備中</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>晴海ふ頭公園・緑道公園が整備中</li> </ul>	 <p>出典(写真):「Google Earth」</p>
豊洲	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊洲スマートエネルギーセンターや新豊洲変電所が立地</li> <li>豊洲市場が開場</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊洲駅北側は、業務、商業、住宅、大学等の複合市街地が形成</li> <li>豊洲ふ頭では、一部集合住宅が立地し、宿泊・業務施設等が整備中、にぎわい施設を計画中</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊洲駅北側の水辺沿いから春海橋公園、豊洲ぐるり公園までつながっている</li> <li>運河ルネサンス(豊洲地区)の取組</li> </ul>	<p>出典(写真):「Google Earth」</p>

## 各地域の現況②(3つの特徴別)

	産業・都市活動を支える機能	都市的利用 (住宅・商業・業務など)	水と緑のネットワーク	
東雲	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふ頭を中心に運輸・倉庫関連施設や鉄鋼団地が立地</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東側には、主に集合住宅からなる東雲キャナルコートや、商業施設が立地</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数の運河に囲まれている</li> </ul>	 <p>出典(写真):「Google Earth」</p>
有明	<ul style="list-style-type: none"> <li>北側には、有明清掃工場、有明水再生センターが立地</li> <li>南側には、臨海地域の交通を支えるゆりかもめの車両基地が立地</li> <li>フェリーふ頭が供用中</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>北側では、集合住宅が多く立地</li> <li>南側では、日本最大の展示施設である東京ビッグサイトや宿泊等のMICE関連施設が立地</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>北側では、東京2020大会施設(有明テニスの森公園、有明アリーナ、有明体操競技場など)が多く整備</li> <li>南側では、平常時は開放されている東京臨海広域防災公園がシンボルプロムナード公園とつながっている</li> <li>新たに有明親水海浜公園を整備中</li> </ul>	
台場	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>フジテレビなどが立地し、商業、業務、宿泊、アミューズメントなど多様な機能を備えた複合型市街地を形成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人々の憩いの場であり、水上バスの乗船所のあるお台場海浜公園や潮風公園がある</li> </ul>	 <p>出典(写真):「Google Earth」</p>
青海	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京国際クルーズターミナルが整備中</li> <li>南側には、国際物流の中心としての役割を果たしている青海コンテナふ頭が供用中</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>北側には、ダイバーシティ東京やパレットタウンなどの商業施設が立地</li> <li>南側では、日本科学未来館や都立産業技術研究センターなどの研究機関が立地</li> <li>テレコムセンタービルなどの業務施設や国の合同庁舎が立地</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>シンボルプロムナード公園、潮風公園など多くの公園がある</li> <li>水上バスの発着所がある</li> </ul>	



## 各地域の現況③(3つの特徴別)

	産業・都市活動を支える機能	都市的利用 (住宅・商業・業務など)	水と緑のネットワーク	
辰巳	<ul style="list-style-type: none"> <li>内貿雑貨を取扱う辰巳ふ頭が供用中</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>西側には大規模な集合住宅団地等が立地</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>辰巳の森海浜公園に、東京2020大会施設(東京アクアティクスセンター)が整備</li> </ul>	 <p>出典(写真):「Google Earth」</p>
夢の島	<ul style="list-style-type: none"> <li>新江東清掃工場が立地</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>夢の島マリナー、植物園、競技場などのレジャー施設が立地</li> <li>夢の島公園に東京2020大会施設(夢の島公園アーチェリー場)が整備</li> </ul>	
潮見	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>印刷工業団地等が立地</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数の運河に囲まれている</li> <li>潮見運動公園がある</li> </ul>	
新砂	<ul style="list-style-type: none"> <li>砂町水再生センター等が立地</li> <li>東京メトロ車庫が立地</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>南砂町駅周辺は土地区画整理事業による基盤整備を行い、規模商業施設や集合住宅が立地</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京湾マリナーが存在</li> </ul>	
新木場	<ul style="list-style-type: none"> <li>広大な貯木場の利用率が低下</li> <li>物流倉庫や建築材料等を取り扱う卸売業の事業所が立地</li> <li>東京メトロ車庫、東京ヘリポートが立地</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ショップ、カフェ等ヘリノベーションした空き倉庫や、木の文化を発信する施設が一部立地</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>広大な水面を活用したイベント等を実施</li> </ul>	 <p>出典(写真):「Google Earth」</p>
若洲	<ul style="list-style-type: none"> <li>内貿雑貨や輸入製材品などを取り扱うふ頭が供用中</li> <li>アジアの貨物等に対応する新規ふ頭を計画</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>若洲海浜公園(ゴルフ場、海釣り施設、ヨット訓練所)、区立若洲公園(キャンプ場)などのレジャー施設がある</li> </ul>	 <p>出典(写真):「Google Earth」</p>
葛西臨海公園駅周辺	<ul style="list-style-type: none"> <li>葛西水再生センター、葛西市場が立地</li> <li>葛西流通業務団地が立地</li> <li>葛西市場が立地</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>住宅や工場が混在し、ゴルフ練習場なども立地</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>葛西海浜公園の干潟はラムサール条約湿地に登録(H30.10.18)</li> <li>東京2020大会施設(カヌー・スラロームセンター)が整備</li> </ul>	 <p>出典(写真):「Google Earth」</p>

## 各地域の現況④(3つの特徴別)

	産業・都市活動を支える機能	都市的利用 (住宅・商業・業務など)	水と緑のネットワーク	
浜松町・竹芝	<ul style="list-style-type: none"> <li>伊豆・小笠原諸島への玄関口である竹芝ふ頭、水上バス等の拠点である日の出ふ頭が供用中</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>浜松町、竹芝では大規模な開発による業務、商業施設等の整備が進む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>旧芝離宮恩賜庭園などの文化資源がある</li> <li>日の出ふ頭は、水上バス乗船所やレストランシップ等がある</li> </ul>	
品川・芝浦	<ul style="list-style-type: none"> <li>芝浦水再生センターが立地</li> <li>芝浦ふ頭が供用中</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>品川、芝浦では大規模な開発による業務、住宅、商業施設等の整備が進む</li> <li>リニア中央新幹線品川駅が整備中</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数の運河に囲まれており、運河ルネサンス(芝浦地区)の取組が進む</li> </ul>	
天王洲・北品川	<ul style="list-style-type: none"> <li>品川ふ頭(コンテナ・内貿貨物)が供用中</li> <li>港清掃工場、品川火力発電所がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務施設や集合住宅、商業施設等の複合市街地が形成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運河ルネサンス(品川浦・天王洲地区)による水辺の賑わいづくりが展開</li> <li>品川北ふ頭公園がある</li> </ul>	
大井	<ul style="list-style-type: none"> <li>大井火力発電所、品川清掃工場がある</li> <li>国際物流の中心としての役割を果たしている大井ふ頭が供用中</li> <li>東京貨物ターミナル駅、新幹線車両基地が立地</li> <li>大田市場が立地</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大規模な集合住宅団地が存在</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大井ふ頭中央海浜公園に東京2020大会施設(大井ホッケー競技場)が整備</li> </ul>	
羽田空港周辺	<ul style="list-style-type: none"> <li>羽田空港は、更なる機能強化に向けた取組を実施中</li> <li>京浜流通業務団地が立地</li> <li>大田清掃工場、スーパーエコタウンがある</li> <li>森ヶ崎水再生センターがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>羽田空港跡地では先端・文化産業・情報発信機能、宿泊施設を整備中</li> <li>昭和島、京浜島、城南島は、製造業事業所が立地</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京港と多摩川に接している</li> <li>城南島海浜公園、京浜島つばさ公園、大森ふるさとの浜辺公園などがある</li> </ul>	
中央防波堤・海の森	<ul style="list-style-type: none"> <li>臨港道路南北線の整備が進む</li> <li>廃棄物処理施設などが立地</li> <li>中央防波堤外側コンテナふ頭が供用中(Y1) 整備中(Y2,Y3)</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>都民協働の植樹活動などにより海の森公園を整備中</li> <li>東京2020大会施設(海の森水上競技場)が整備</li> </ul>	

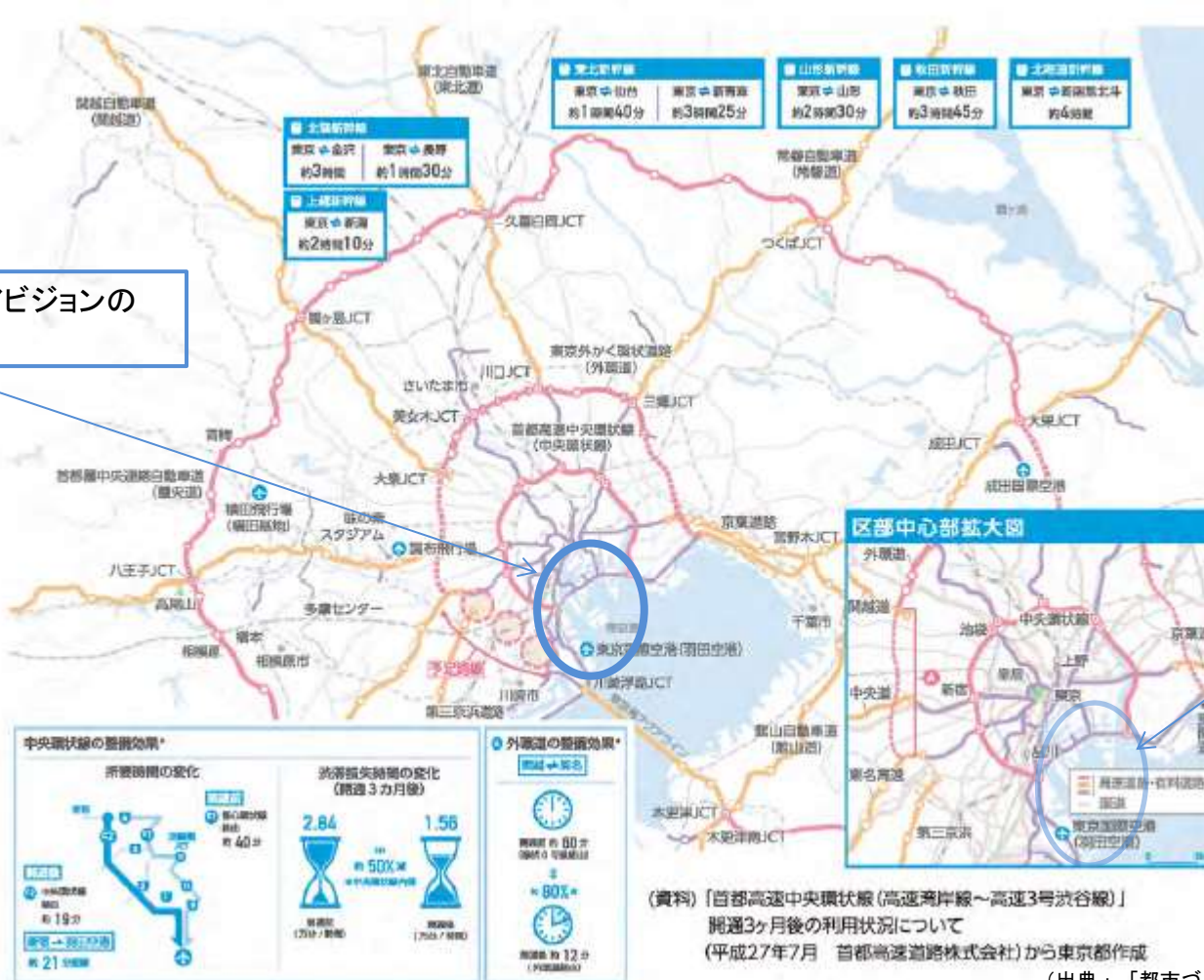
出典(写真):「Google Earth」

出典(写真):「Google Earth」

出典(写真):「Google Earth」

# 広域交通ネットワーク(道路)

広域的なインフラネットワーク



(資料)「首都高速中央環状線(高湾岸線~高湾3号渋谷線)」  
 開通3ヶ月後の利用状況について  
 (平成27年7月 首都高速道路株式会社から東京都作成)

(出典:「都市づくりのグランドデザイン」より一部加筆)

# 広域交通ネットワーク(鉄道)

「東京圏における今後の都市鉄道のあり方について」に位置付けられた路線

羽田へのアクセス強化イメージ



(資料)国土交通省「東京圏における今後の都市鉄道のあり方について」(平成28年4月)から東京都作成



(出典:「都市づくりのグランドデザイン」より一部加筆)

## 東京ベイエリアビジョン（仮称）検討の進め方（案）

## 【官民連携チーム】

## 【庁内検討委員会】

## 【ワーキンググループ】

第 1 回 (8/2)

- ・ビジョン(仮称)について



第 1 回 (8/29)

- ・ビジョン(仮称)の  
検討対象エリアについて
- ・検討のテーマ(案)について

第 2 回 (10 月 30 日)

- ・2040 年代の社会経済状況
- ・東京ベイエリアの特徴

第 3 回 (1 月頃)

- ・2020 大会後の成長戦略
  - ・都市基盤や土地利用のあり方
- ビジョン 構成案

第 2 回 (H30 年度内)

- ・ビジョン(素案)



第 4 回

- ・ビジョン(たたき台)



第 3 回 (H31 夏頃)

- ・ビジョン(中間報告)



第 5 回

- ・ビジョン(中間報告案)

【パブコメ H31 夏頃】

第 4 回 (H31 秋頃)

- ・ビジョンとりまとめ



第 6 回

- ・ビジョン(案)とりまとめ

【ビジョン策定 H31 年末】

提案

官民連携  
チームに  
よる検討